

# 地域資源で活性化を

## 宮古毎日新聞

発行所  
宮古毎日新聞社  
沖縄県宮古市平良字西里403  
郵便番号906-0012  
郵便振替口座17040-8593551  
私書箱・宮古中便第19号  
©宮古毎日新聞社2006  
代表 0980-72-2343  
FAX 0980-72-3733  
那覇支局 098-861-9091  
FAX 098-861-9092  
東京支社 03-5565-3008  
FAX 03-5565-3009

### しま興し講演会

# B・pの可能性探る

## 琉大教授らが研究成果を発表



宮古ビデンス・ピローサの薬効性などが示された講演会—28日、マティダ市民劇場

BPの地域差による主な成分差(%)

RT	1	2	3	4	5	6	7
23-	0.0	4.50	8.20	0.0	0.0	0.0	0.0
* 26-	4.9	11.0	8.4	6.6	0.9	10.4	0.4
28-	25.9	18.2	11.5	33.4	93.4	79.5	94.3
* 36-	48.4	54.6	41.0	55.3	4.9	3.8	1.4
39-	0.0	0.0	0.0	2.1	0.1	2.2	1.3
49-	1.2	1.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.3
* 47-	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
* 66-	3.9	0.0	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0
陽性率%	12.5	12.5	0.0	37.5	37.5	62.5	87.5



河本昌彦副会長



安仁屋洋子教授

オーブニングセレモニーは午後四時三十分から開かれた。宮古高校吹奏楽部の演奏の後、伊志市市長が「ビデンス・ピローサ」という宮古ブランドの確立により、宮古島で大きな農業振興が期待できる」と強調、経済や観光の面でも好影響を与えると述べた。続いて県産業振興公社の牧野浩隆理事長(副知事)が来賓あいさつし、宮古B・p事業が県の「沖縄産業官共同研究推進事業」に採択されていることを紹介し「沖縄経済を活性化

第四回地域資源を活かしたしま興し講演会「宮古ビデンス・ピローサシンポジウム」(主催・宮古島市、共催・武蔵野免疫研究所など)が二十八日午後、マティダ市民劇場で開催された。琉球大学の安仁屋洋子教授や日本化粧品技術者会の河本昌彦副会長が講演し、宮古ビデンス・ピローサ(宮古B・p)の薬効性を強調、宮古B・pという島の資源を生かした地域の活性化を訴えた。会場には大勢の市民が詰め掛け、宮古B・pの限らない可能性について認識を深めた。

化させる資源となり、島おとし、県の産業振興に貢献されることを期待している」と話した。この後、安仁屋教授が「宮古B・pと抗酸化作用」と題して講演。動脈硬化や心筋梗塞などを引き起こす恐れがある活性酸素について説明し、宮古B・pに強い抗酸化作用があることを強調した。また、白血球からの活性酸素をどれくらい抑えるのか、という実験からも宮古B・pの抗酸化を確認したことや肝保護作用があることも報告した。その上で安仁屋教授は宮古B・pには①強い抗酸化作用がある②肝

障害を抑制する「など」とまとめた。日本化粧品技術者副会長の河本さんは「宮古ビデンス・ピローサの研究」と題して講演した。河本さんは宮古島の「ビデンス・ピローサ」の必要性を強調し「宮古島のビデンス・ピローサは花びらが平均八枚ある。別の地域のビデンス・ピローサとは成分も違い、その効果が大きい。現状では量が足りない」と栽培面積の拡大を促した。その上で宮古B・pを使用した化粧品やタブレットの効果を報告。アトピー性皮膚炎や花粉症、糖尿病などにも改善事例があるとし、「今の宮古島の生産していただきたい」と自然環境を保ち、さらに「なごみ」を話した。

会場の市民らは安仁屋教授と河本さんの講演に

耳を傾け、地域資源である宮古B・pの可能性について新たな認識を深めていた。講演終了後は久田本流久田多嘉子舞踊研究所やパニニガールズ、琉球國祭り太鼓宮古支部がアトラクションを披露し講演会を盛り上げた。宮古B・pは宮古方言でムツウサと呼ばれているが、ムツウサという表現はタチアワユキセンダングサやシロバナセンダングサ、アメリカセンダングサをはじめ、コセンダングサ、シロノセンダングサなどの総称。宮古島市や、宮古B・pを城辺の工場で加工している武蔵野免疫研究所では宮古B・p(和名・タチアワユキセンダングサ)としている。現在、宮古では二十戸の農家が計七畝で宮古B・pを栽培している。

耳を傾け、地域資源である宮古B・pの可能性について新たな認識を深めていた。講演終了後は久田本流久田多嘉子舞踊研究所やパニニガールズ、琉球國祭り太鼓宮古支部がアトラクションを披露し講演会を盛り上げた。宮古B・pは宮古方言でムツウサと呼ばれているが、ムツウサという表現はタチアワユキセンダングサやシロバナセンダングサ、アメリカセンダングサをはじめ、コセンダングサ、シロノセンダングサなどの総称。宮古島市や、宮古B・pを城辺の工場で加工している武蔵野免疫研究所では宮古B・p(和名・タチアワユキセンダングサ)としている。現在、宮古では二十戸の農家が計七畝で宮古B・pを栽培している。